

保護者の皆様

横浜市立仲尾台中学校

校長 藤井 正春

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

日頃より本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、令和4年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が先日公表されました。中学3年生を対象に、これまでの学習の取組状況等が調査されたものです。以下に本校の結果の概要をお知らせいたします。

《 教科に関する学力調査の結果 》

◎調査結果からみる本校の特徴

- ・数学と理科に、県や全国の平均正答率と比べてやや高い状況が見られました。

中学校 「平均正答率 (%)」

	国語	数学	理科
仲尾台中学校	69	54	51
神奈川県との差	0	+1	+1
全国との差	0	+2.6	+1.7
神奈川県	69	53	50
全国	69.0	51.4	49.3

※神奈川県、全国値は、公立学校の平均正答率です。

◎調査結果に特徴のある問題を基にした各教科の分析

・国語

問題番号3一の比喩を用いた表現技法の理解については正答率63%と全国より10ポイント高いです。問題番号1一、1二の論理の展開に注意して聞く、分かりやすく工夫して伝える問題では、79%、70%と、それぞれ全国より5ポイント高いです。問題番号2二①、②の文脈に則した漢字を正しく書く問題の正答率は72%、69%と、全国より9～10ポイント低いです。

・数学

問題番号7(2)箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる問題の正答率55%と全国より11ポイント高いです。問題番号6(1)考察の対象を文字式の代入を使って明確に捉える問題の正答率78%と全国より5ポイント高いです。問題番号9(1)証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題の正答率64%と全国より9ポイント低いです。

・理科

問題番号1(2)実験を計画できるかどうかをみる問題の正答率83%と全国より5ポイント高いです。問題番号7(2)実験の計画を改善できるかどうかをみる問題の正答率60%と全国より7ポイント高いです。問題番号8(3)動物の分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる問題の正答率29%と全国より10ポイント低いです。

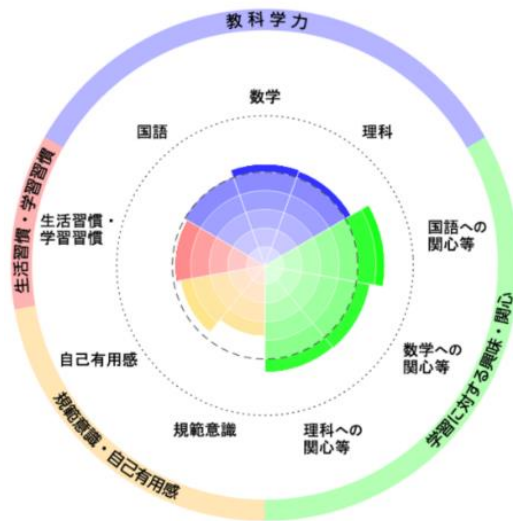
《 生活習慣・学習習慣と教科に関する調査結果との関係 》

円グラフ内の教科学力は学力調査の結果で、表面の数値と連動しています。令和3年度は理科は実施していません。その他の3つの項目は、生活調査の回答結果です。円グラフの中央にある点線部分が、それぞれ全国平均、神奈川県平均です。

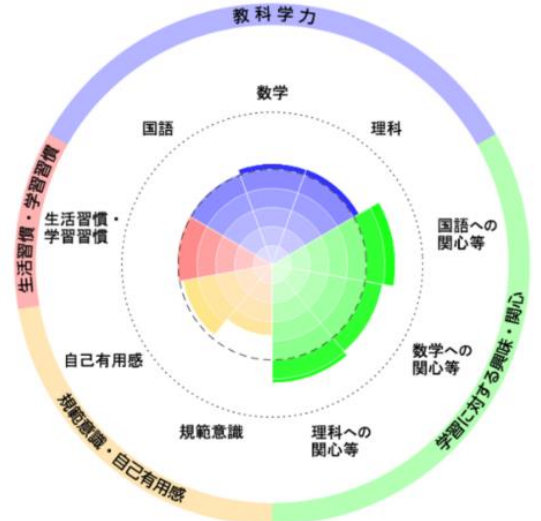
【令和4年度 中学3年生】

[児童生徒]

生徒質問紙(全国基準)

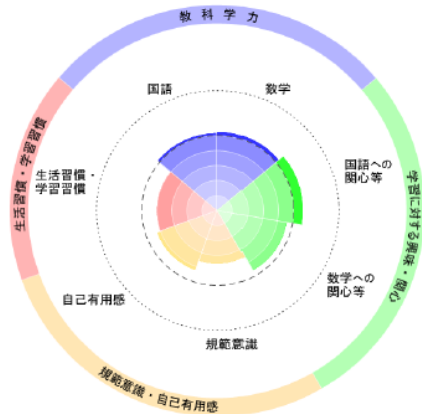


生徒質問紙(神奈川県基準)

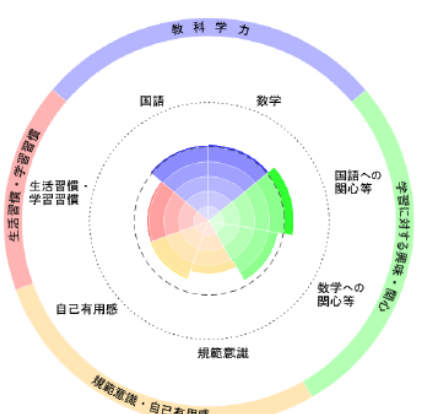


【※参考 令和3年度 中学3年生】

生徒質問紙(全国基準)



生徒質問紙(神奈川県基準)



◎生徒が回答した質問紙からみる本校の生徒の特長と課題改善にむけた学校の取組

・「教科学力」「学習に対する興味・関心」について

「教科学力」、「学習に対する興味・関心」ともに全国・県の平均よりも高くなっています。今後さらに、主体的で対話的な深い学びを実現する授業を計画し、単に学習内容を伝える講義的な授業ではなく、言語活動を重視した授業を心掛け、自分の考えを表現できる生徒を育成していきます。また、ICT活用を推進して、生徒の資質・能力、とりわけ〈言語能力〉聴く・語る（聞く・話す）力および、〈問題発見・解決能力〉の育成を図ります。

・「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」について

・自分には、よいところがあると思いますか。73.4%（全国 78.5%） ・人が困っているときは、進んで助けていますか。83.5%（全国 89.4%） ・友達と協力するのは楽しいと思いますか。88.1%（全国 93.7%）

昨年度と比べて肯定的な回答が増えていますが、全国と比較すると下回っている状況です。引き続き、授業改善に関する取組を通して、友達と協力して学ぶことを楽しいと感じ、困っている友達を助けようとする態度を育むことにより、規範意識や自己有用感を高めていきます。また、学習や学校行事、部活動等を通して、現在の自分に対する肯定的な見方や将来への不安を少しでも払拭することができる指導も継続して行っていきます。安定した生活習慣が安定した学習習慣につながります。ご家庭や地域との連携も更に進めます。